

アート電子が

SDGs宣言

世界的目標へ広銀も支援

鉄道や通信機器向けの電子部品、電子回路などを手がける周南市桜木のアート電子(門馬芳幸社長)は7月26日、国連が定めた持続可能な開発目標「SDGs」に積極的に取り組むことを表明する「SDGs宣言」を公表した。

SDGsは、2015年に国連で採択された経済、社会、環境のあり方についての世界共通目標。貧困や飢餓の撲滅、健康と福祉の促進、働き方の改善、資源の有効活用など17項目がある。企業への社会的

な要請にもなっており、SDGs宣言は、地域社会や顧客へのPRにつながる。

同社の主要事業のプリント基板製作は、電子部品のはんだ付けで細かく丁寧な手作業が要求され、1982年の創業から性別にこだわらず地元の人材を積極的に採用してきた。

現在は全社員25人のうち女性が13人。当初から育児と家事、仕事の両立できる職場づくりを推進してきた。社員が長く安心して働ける環境の整備に取り組むことで、地域とともに

永続する企業を目指し、省エネ設備の導入、リサイクルが容易な部材を使った製品開発などで環境に配慮しながら、鉄道、情報通信、医療分野への製品供給を通じて社会インフラ発展への貢献を図る。

同社のSDGs宣言は、広島銀行徳山支店が協力した。同行は、企業のSDGsへの取り組み支援を2020年1月に開始。オリジナルのチェックシートで企業の取り組み状況を確認し、対応が必要な項目を整理して「SDGs

宣言」の策定までサポートしている。アート電子は3月から準備を進め、調達製造部署などに所属の7人が、資料の準備、書類への記入など申請手続きを担った。

昨年6月には、経済産業省から「事業継続力強化認定」を受け、自然災害への事前対策を講じている企業として

今後、安定操業が期待されている。

門馬社長(40)は「様々な地元企業からの製品開発依頼に添えて、長

きたい」と語った。



門馬社長